

このコーナーでは
「大田市」で活躍
紹介します

輝く

温泉津の温泉街を歩いていると、ちよつとハイカラなお店『路庵(ろあん)』があります。路庵は、町並み保存の指定を受けた同地区で、Uターンをした小川知興さんが古民家を保存改修してカフェとしてオープンしました。

小川さんの熱い想いが実現し、静かな町中に新たな憩いのスポットが誕生しました。路庵で、小川さんの「故郷へのこだわり」を聞いてみました。

念願のカフェ

静かな温泉街の中にあるお店の雰囲気は昭和の時代を思わせませす。懐かしい感じのガラス戸を開けて店内に入ると、待っていてくれたのが、小川知興さん(30歳)です。

小川さんは、3年前に家業である小川商店を継ぐため、妻の雅代さんとともに温泉津町へUターンしました。学生時代からカフェでアルバイトをし、「30歳になるまでに自分のカフェを持ちたい!」という夢を持ち続け、昨年6月に念願のカフェ『路庵』をオープンしました。お店の名前は、道端にたずむ風流な建物という意味から名付けたそうです。

路庵は、100種類以上の焼酎が並

ぶカウンターと、こだわりの調度品が印象的なお店で、小川さんは本業のかわら、このカフェの店長もしています。家具類は学生時代から買い揃えていたものもあります。



知興さんと雅代さん

仲間の協力

オープンまでには仲間の協力がありました。温泉津の若者で作るまちづくりグループ「温泉津ものづくりネットワーク」を立ち上げ、メンバー達とともに、温泉津の陶土を使って焼いたコーヒーカップや焼酎の湯割呑、畳縁の素材のコースターなど「温泉津に由来のもの」を作り、カフェで使っています。

また、2人の従業員もUターン者で、この町の魅力にひかれ、温泉津町にやって来ました。

故郷へのこだわり

路庵は建物自体にも、こだわりがあります。重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業の第1号として民家を修理したものです。修理は文化庁の指導を受けながら進められ、使える部材はそのまま利用し、屋根瓦も混ぜ葺きにするなど、歴史情緒のある町並みにあわせ、落ち着いた雰囲気になりました。

最後に、路庵で焼酎を出す理由を教えてくださいました。「明治や大正時代、北前船で温泉津焼の『はんど(水がめ)』を九州の有名な焼酎の蔵元に運んでい

この店にあるものにはすべて「物語」がある 小川知興さん(温泉津町)

念願のカフェをオープン



木組みの美しい店内

<一口メモ>

温泉津地区の町並み保存

平成16年7月に温泉街を中心に温泉津地区が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。保存地区の分類は「港町・温泉町」です。全国で64番目、市内では大森銀山地区に続き2番目の選定になります。

今後、市内に2号店を計画中。「温泉津だけ、とか考えていません。僕の故郷はこの『大田市』ですから」と広い視野で地域を見つめています。

たんです。そのはんどは今でも使われていて、それで仕込んだ焼酎が、この温泉津に戻ってきてるんです」と、まるで自分のことのように熱く語りま